

地域に暮らす患者や家族の思いを つなぐ保健師活動 ～がんサロンのネットワーク化～

テーマ「個別支援実践例から考える」

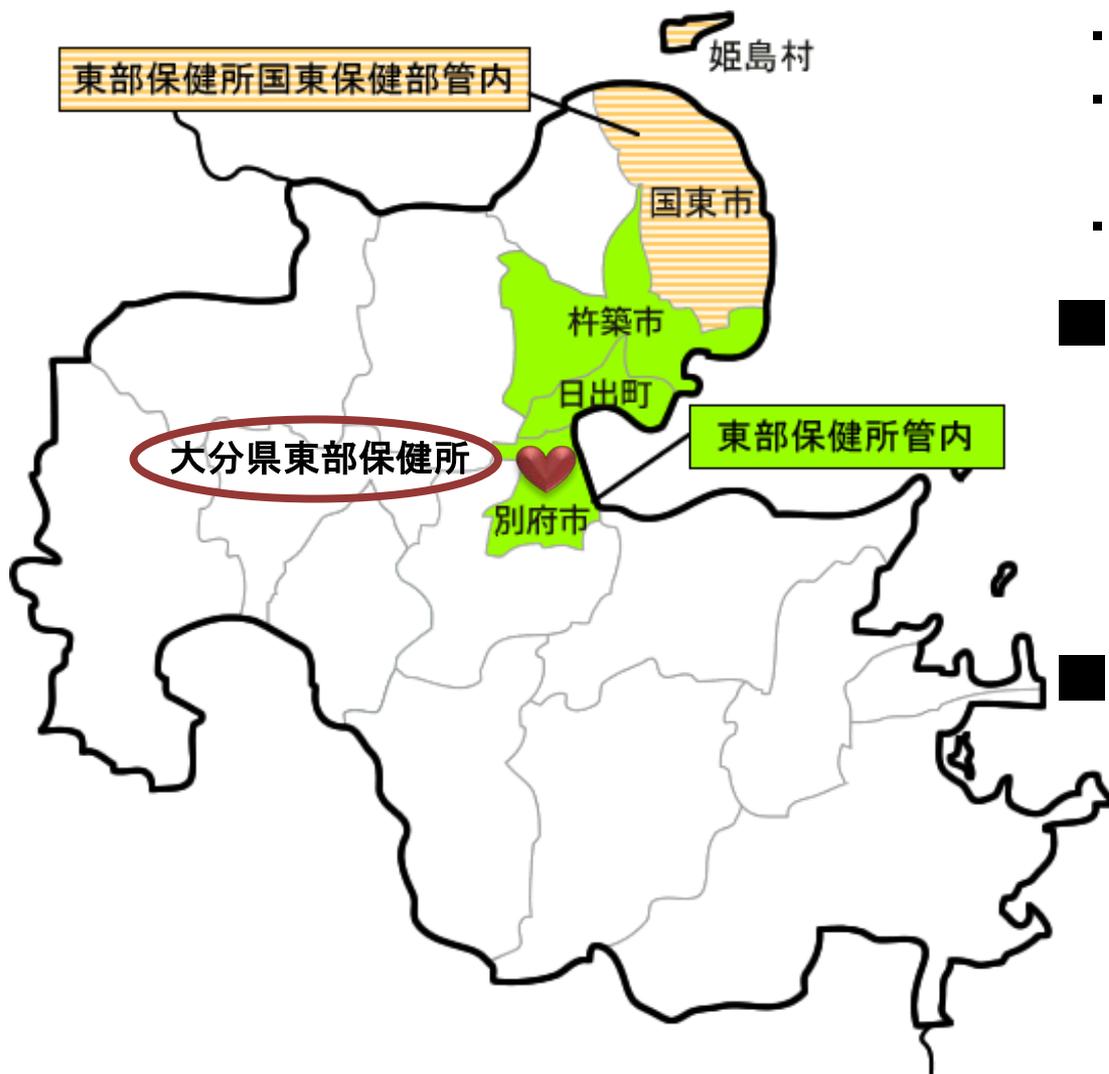


日本一のおんせん県おおいた  味力も満載

全国保健師長会代議員総会シンポジウム
と き：平成27年11月28日（土）
ところ：くまもと県民交流館
大分県東部保健所 地域保健課

主幹 武野 真澄

大分県東部保健所管内の概況①



- 組織・職員配置 4課、64名
 - ・所長、副所長、次長、**参事**
 - ・地域保健課(4班)16名
 - 参事兼課長**1名、**保健師**11名
 - ・健康安全企画課13名(**保健師**1名)

■ 管内人口及び面積

別府市	121,422人、125.29km ²
杵築市	30,312人、280.06km ²
日出町	28,017人、73.33km ²
管内計	179,751人、478,68km²

■ 高齢化率・合計特殊出生率

別府市	31.2%、1.29
杵築市	34.4%、1.66
日出町	27.8%、1.55
管内計	31.5%、1.39
(全国)	25.1%、1.43)

大分県東部保健所管内の概況②

■主要死因別死亡数、人口10万対 (平成25年人口動態調査都道府県標準結果)

死因		管内	別府市	杵築市	日出町
悪性新生物	実数(人)	589	415	97	77
	人口10万対	332.8	349.6	319.0	276.1
総数	実数(人)	2,275	1,511	454	310
	人口10万対	1285.4	1,273.0	1,493.0	1,111.6

がんによる死亡
年間約600人
死亡総数の約1/4

■がん患者の在宅死亡の状況 (平成23年度大分県東部保健所調べ)

大分県5.6%に対し、別府市3%・杵築市9%・日出町3%

■医療機関、在宅支援機関、がん分野認定・専門看護師等の状況

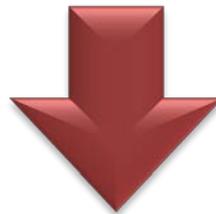
H25.7.5現在	計	別府市	杵築市	日出町
地域がん診療連携拠点病院	1	1	0	0
がん手術対応病院	12	9	1	2
在宅療養支援病院・診療所	39	32	4	3
訪問看護ステーション	18	12	3	3
がん分野認定・専門看護師	12	12	0	0

地域がん診療連携拠点病院
で毎月1回がんサロンを開催

※がん分野認定・専門看護師はH26年7月現在のデータ

大分県東部保健所がん対策の取組み①

県 予 算 事 業	H21～23年度	がん体験者ピアサポート講習会
	H23～25年度	地域がん在宅療養支援検討会・研修会
	H24・25年度	がん在宅ケアチームづくり事業



H25年度～担当になった。
このまま終わらせるには・

見えてきたこと

【患者・家族の思いは・・・】

- ◆在宅療養のイメージができない
- ◆家で看取られたい
- ◆同じ病気の人とつながりたい

【在宅療養関係者にとって・・・】

- ◆急変時に主治医とタイムリーな連絡がとりにくい
- ◆痛みのコントロール等専門的な知識が不足している
- ◆医療と介護の切れ目のない連携が必要

大分県東部保健所がん対策の取組み②

そうだ！地域の声をつなぐために…
担当班から主要事業への位置付けを提案しよう！

H25年度

主要事業に
位置付ける

保健所重点事業

「東部地域がん在宅医療連携促進事業」

○連携会議 ○事例検討会

◎在宅緩和ケア研修会（講師：認定看護師）

◎患者・家族支援強化

H26・27年度

保健所行動計画

「地域包括ケアシステム構築を目指した
在宅医療・介護連携体制の整備」

◎事例検討会・研修会

◎患者・家族支援強化～がんサロン

目標：地域の関係機関・支援者のネットワークの充実・強化を図り、
がん患者・家族が安心して、在宅療養を送ることができる。

事例1 在宅療養移行ケースとの関わり①

Aさん 40代 女性

病名 10年前に卵巣がん発症、再発・全身転移(肺、脳)

経過 X月 嘔気・嘔吐、食欲低下あり入院

右胸水、胸骨・皮下転移、疼痛増強あり

広範囲な脳転移、脳浮腫・脳圧亢進徴候あり

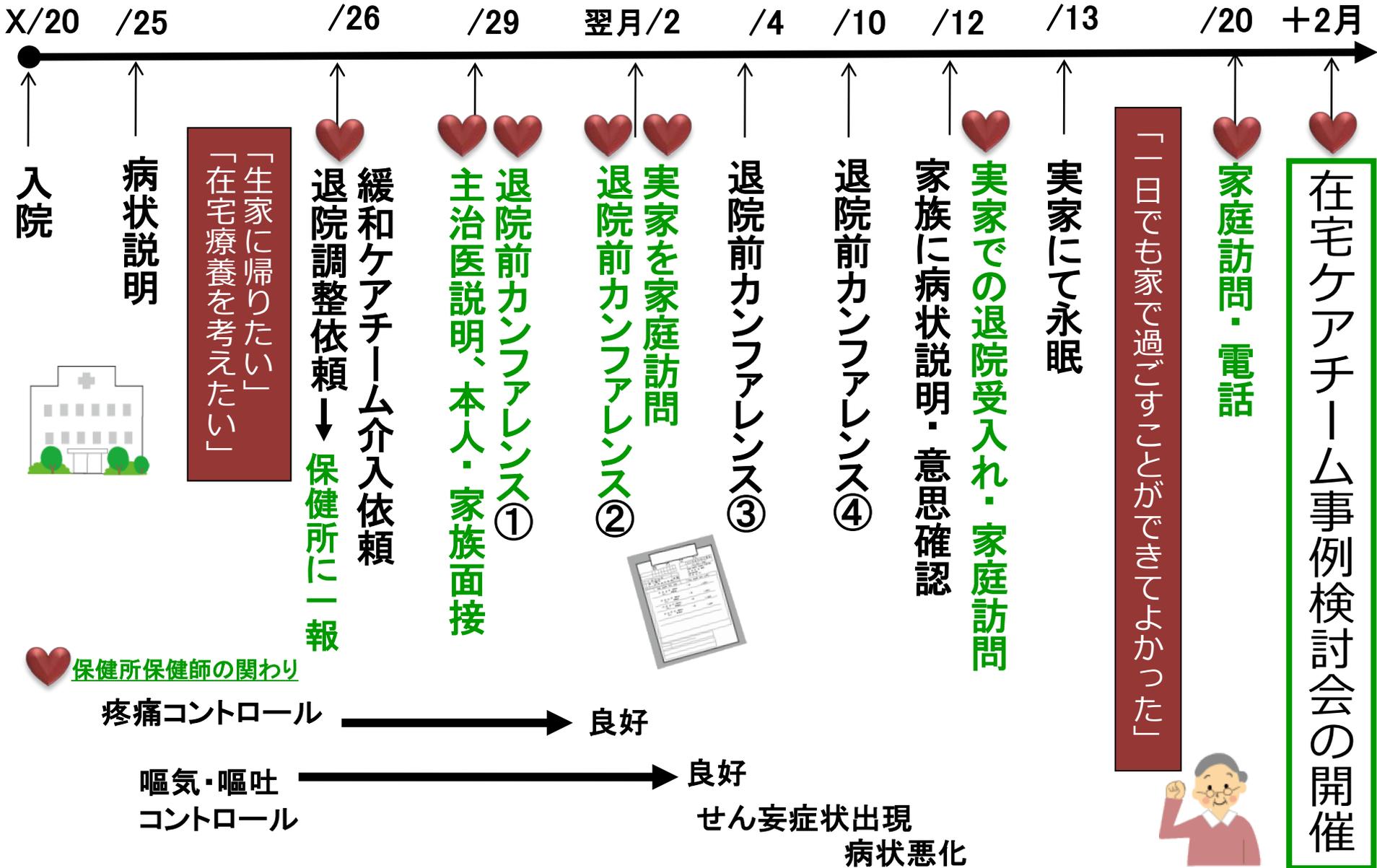
本人「家に帰りたい」 → 家族「在宅療養を考えたい」

X+1月 在宅療養のため、実家に退院

家族構成 夫、高校生の息子と3人暮らし
実母と妹が同じ市内に在住

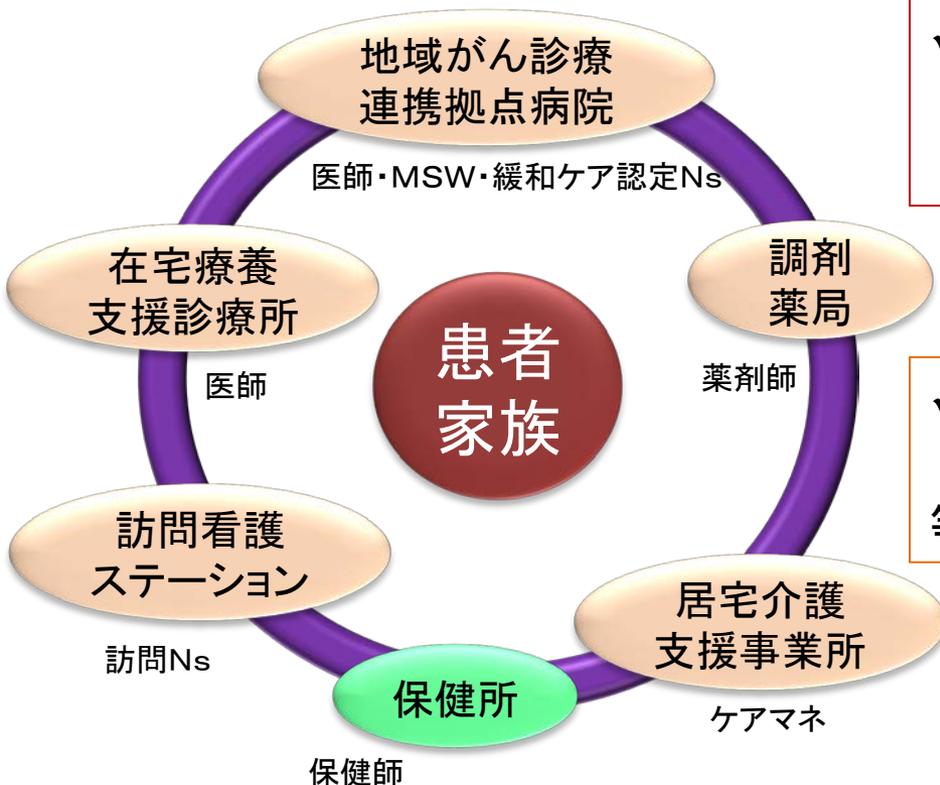


事例1 在宅療養移行ケースとの関わり②



がん在宅ケアチーム事例検討会(主催:保健所)

■入院中から在宅療養支援者の顔がつながる



✓ 患者・家族にとって…
「病室での環境を自宅でも続けられる…」
という安心感につながる。



つなぎ役
医療連携室 (MSW・Ns)

✓ 在宅療養支援者にとって…
患者・家族の希望、治療・疼痛コントロール
等の在宅支援方針を共通認識できる。

あれっ?
今後の家族支援は?

■入院中の事前訪問で生活の場とつながる

- ✓ 介護者の不安や思いを知る。 → 「実は、私もがん患者なのです…」
- ✓ 在宅環境を確認できる。
- ✓ 在宅ケアチームとそれぞれの役割を伝える。

事例2 がんサバイバーとの関わり

Bさん 60代 男性

病名 40代大腸がん、50代悪性リンパ腫

がんサバイバーの活動

遠い。交通の便が限られている。
体調によって参加できない・・・等

RFL大分の事務局活動、病院がんサロンへの参加

➔ H24・25年度 ミニリレーフォーライフを年1回開催

参加：RFL大分・自治会・行政・地域がん診療連携拠点病院・看護学校等



もっと身近なこの地域に
がんサロンを立ち上げたい。
自分以外にも、2人の
サバイバーが賛同している。

そうだ！
訪問看護師のCさんと
つながろう！

事例3 訪問看護師との関わり

Cさん 訪問看護ステーション管理者

Aさんの在宅療養移行支援で関わった訪問看護師

➡ Aさんの家族へのグリーフケアについて話し合う。



がん在宅療養のケースを何人も受け持っている。
患者や家族は、在宅療養中の思いを分かち合いたいと感じている。訪問看護師もその必要性を感じている。
在宅療養後もその思いがつながる場＝がんサロンを立ち上げたい。どうやって進めていくとよいのだろうか？

➡ Bさんを含めた3人のサバイバーとの顔合わせを提案する。

ひとやすみコミュニティサロンの立ち上げ

(主催: 訪問看護ステーション)

H26年1月 Bさん・Cさん・保健師で話し合い

それぞれの思いを共有 → サロンの運営方針を検討

(Bさんから、RFLがんサロン等の運営方針を紹介)

目標: がん患者・家族が日々の困りごとやケアのことを
気軽に語り合える場ができる。

H26年3月 がんサロン研修会参加、立ち上げ話し合い

→ 第1回がんサロンを開催 ◆ Aさんの家族(サバイバー)も参加

毎月第4土曜日に定例開催、平均12・13名参加

H26年9月 郊外型サロンを開催

各地から、サバイバー・家族・ボランティア・行政等 約50名参加

H27年11月 第20回がんサロンを開催

そうだ！
がん拠点病院と
つながろう！

事例4 がん拠点病院MSWとの関わり

Aさんの在宅療養支援で関わったがん拠点病院のMSW

➡ がん在宅療養支援体制の課題について話し合う。

病院がんサロンのマンネリ化等、運営に苦慮している。

ピアサポート講習会受講者の協力は続いている。

がん相談支援センターとして、地域型サロンを立ち上げ「ひとやすみコミュニティサロン」の強みを伝える。

➡

お互いの思いを大切にし合い、自己効力感を高め
あっている。サバイバー・在宅療養支援機関・行政の
一体感が生まれている。

➡ 当事者会、市町保健師との話し合いを提案する。

➡

がんサロン陽だまりの立ち上げ

(主催:がん拠点病院)

H26年5月 市町保健師会議にて説明

Bさんを含めたサバイバー、MSW、保健師で話し合い

→ 地元で地域がんサロン立ち上げたい！

がん拠点病院から、役場等地域の関係機関に連絡

H26年10月 地域がんサロン説明会を開催

サバイバー・病院・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・役場・地域包括 等参加

H27年1月 応援隊まなび塾を開催

サポーター基礎講座(認定看護師・臨床心理士・サバイバーが講師)

H27年2月 第1回がんサロンを開催 ◆Aさんの家族も参加

毎月第2金曜日に定例開催、平均15・16名参加

H27年4月 第1回応援隊ミーティングを開催

H27年11月 第12回がんサロンを開催 ←

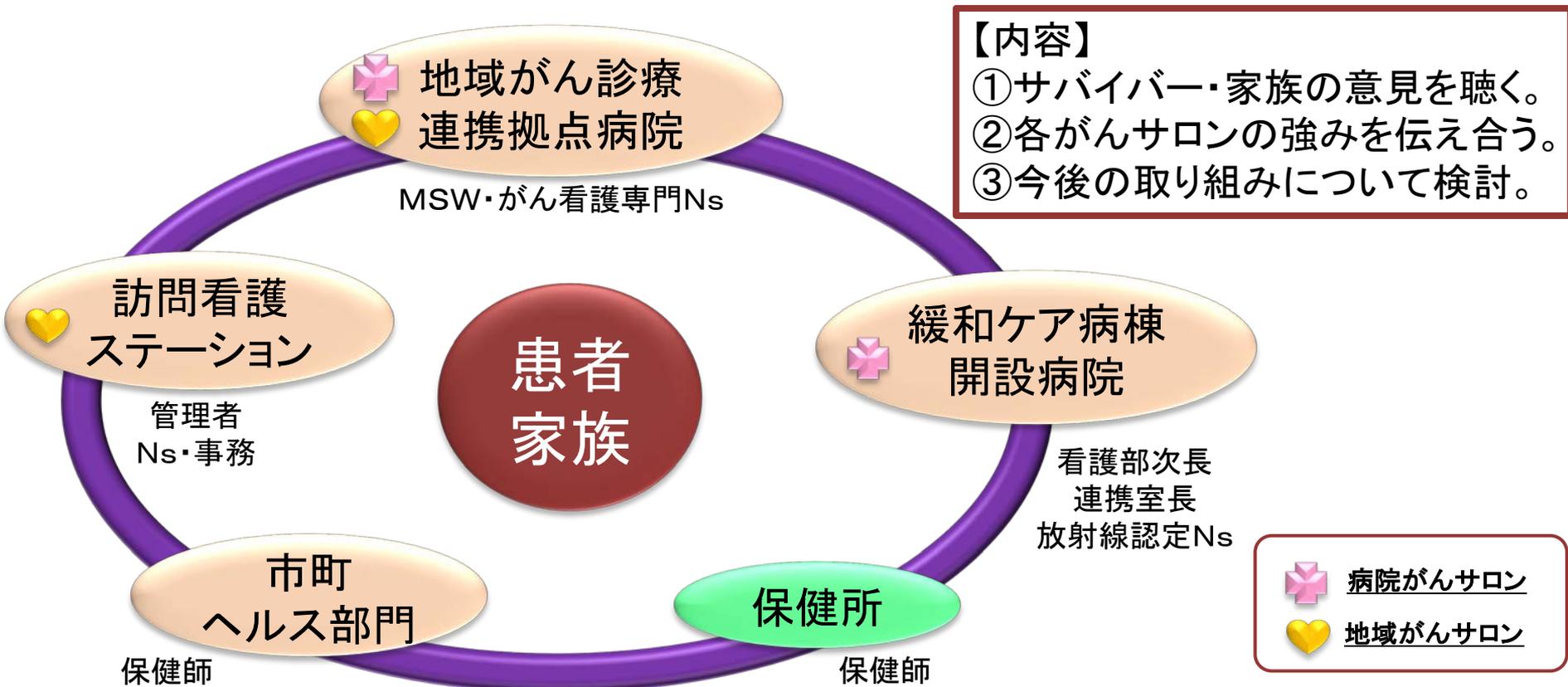
そうだ！地域の
がんサロンを
つなごう！

がんサロンネットワーク会議の開催

(主催:保健所)

H27年8月 第1回管内がんサロンネットワーク会議を開催

➡ 目標:各がんサロンの強みを知り合い、地域の支援体制について、情報交換する場ができる。



サバイバーの声

入院中は、周りに同じ病気の人と話せる。
がんサロンに関心なかった。

家に帰って、家族に心配かけたくない。
職場でも話せない。

友人や看護師等の声かけで
がんサロンに足を運ぶようになった。

■ がんサロンに参加して...

- ・身近な地域にがんサロンがある。
- ・悩みを吐き出すことができる。
→ 安心した。
- ・いろいろな患者がいることを知った。
→ 自分の生命に向き合うことができた。
- ・たくさんの支援者がいるとわかった。
→ 感動した。

家族の声

本人の希望通り、自分の部屋で穏やかに
逝った。→介護のあり方これで良かった…

今後の取り組み

- がんサロンのよさをたくさんの人に伝える。
 - 共通のリーフレットの作成(保健所案作成)
 - サバイバーとして、県内の病院やがんサロンを訪問する。
 - 病院、訪問看護ステーションで、施設内掲示・ホームページを充実する。
 - 行政は、市町報、ホームページ、看護管理者・ケアマネ等の会議で周知を強化する。
- お互いのがんサロンに参加してみる。
 - ネットワーク会議後、緩和ケア病棟を見学。



「個」から「地域」へ広げる保健師活動

- ✓ 当事者は、地域を動かす力を持っている。
- ✓ 保健師は、患者・家族の生活をみる視点をもち、健康課題を総合的にとらえていく。
- ✓ 患者・家族、関係者と直に関わること(顔の見える関係)から、地域のキーパーソンが見えてくる。
- ✓ 地域の健康課題の解決に向けて、常に一定の「活動方針」をもとに、関係者で、「目標」、「方法」を検討していくプロセス(PDCAサイクル)により、ネットワークが強化されていく。



がんになっても安心して暮らせる地域づくり

